

会 議 録

	第3回和泉市緑の基本計画懇談会
開催日時	令和2年1月21日（火）10時00分から12時00分まで
開催場所	和泉市コミュニティセンター1F大会議室
出席者	和泉市緑の基本計画委員 増田会長 内田委員 藤田委員 宮本委員 久保委員 東委員 中委員  和泉市 都市デザイン部長、都市デザイン部次長（建築住宅・公園緑地担当）
事務局	公園緑地課
会議の議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会</li> <li>・議事（1）みどりのまちづくりの基本的方向性</li> <li>・議事（2）基本施策</li> <li>・閉会</li> </ul>
会議の要旨	「和泉市緑の基本計画懇談会」は、平成11年3月に策定した「和泉市緑の基本計画」において、その後の都市緑地法等の改正、大阪府による「みどりの大阪推進計画」の策定、本市総合計画及び都市計画マスタープラン等の上位・関連計画の改定、社会情勢の変化等を踏まえ、当計画の改定にあたって、関係各方面から意見をいただく。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他

<p>その他の必要事項（会議の公開・非公開、傍聴人数等）</p>	<p>会議公開 傍聴人：1名</p>
<p>審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）</p>	
<p>・開会、挨拶 事務局より挨拶、資料の確認</p> <p>議事（1）みどりのまちづくりの基本的方向性</p> <p>《意見》</p> <p>○2-19 ページのアンケート結果で凡例が抜けている。また、順番は「もっと公園が必要」、「今のままで良い」、「もっと少なくても良い」とするべき。</p> <p>○市民一人当たりの公園面積について、都市計画で予定している公園が全て整備された場合、将来人口推計から見てどれくらい余分があるのかを示した上で、重点的に整備していく方針を書き込むべき。</p> <p>○2-9 ページの「農林エリア」は林業よりも里山が主であり、林業という言葉に記載するのであれば、林業的手法と里山保全的手法の両方の記載が必要である。</p> <p>○貴重な動植物について、市は145種を認識しているということ参考として入れても良いのではないか。</p> <p>○2-15 ページの緑被率のデータについて、季節を考慮してデータを揃えれば、より正確に比較が出来るので次回以降は考慮するべき。</p> <p>○2-20 ページの「社会のニーズに合わなくなりつつある公園」について、社会のニーズに合う合わないがどのようなものなのか、具体的に検討されたほうが良い。</p> <p>○身近な公園が不足している地域等については、公園整備をしていくような積極的な方向で指針を書いた方が良い。また社会ニーズについても地域住民のニーズを踏まえながら展開していくなど、大きな指針を整理して具体的に書くべき。</p>	

- 2-13 ページの指標について、本計画は公園だけに限定をしていないはずが、公園の指標だけになっているように感じる。地域性緑地などの目標をあげてはどうか。
- 2-3～2-4 ページにみどりの将来像図がありますが、何を意図しているのか市民が見ても分からない。2-4 ページに「みどりの将来像を踏まえた」とありますが、具体的にどう踏まえたのかを箇条書き程度で記載すると良い。
- みどりの大阪推進計画にある泉州地域の「骨格となるみどり」という位置付けは、和泉市の基本計画では「シンボルとなるみどり」と記載しており、相互関係が分かるようにするべき。
- 2-6 ページで大学の位置づけが微妙な印象である。みどりの拠点として「公共的施設（大学）」あるいは「大学を含む公共施設」という形で整理するべき。

## 議事 (2) 基本施策

- 基本施策 1 では、大阪府の森林プラン改訂版の森林整備の指針に沿った文言（スギ・ヒノキ等の林中心タイプと広葉樹林中心タイプ）で作成するべき。
- 信太山丘陵周辺の保全配慮地区において、自衛隊と包括協定を定め、連携していくことを検討していただきたい。
- 3-16 ページの槇尾川上流部の自然とのふれあいの場としての活用は、現在活動が継続しているので、現状を増進していくような方針があっても良い。
- いずみふれあい農の里や南部リージョンセンターについては、市民交流の推進と共に産地形成を進め、農地保全に寄与していくような内容を記載するべき。
- 農業体験や自然ふれあい拠点施設は、生涯学習や環境教育の意味合いも含まれている。キーワードとして環境教育などの言葉が感じられるような表現があっても良い。
- 素案 1-3 ページでの「みどり」に対する定義が狭い。自然環境に対する負荷やインパクトを軽減するために、みどりの役割がたくさんあるということを出すべき。市域全体に渡ってみどりを扱っているという解釈を追加していただきたい。
- 空家対策にあわせた身近なみどりの創出について、担当課と協議し、記載可能なものがあれば記載して頂きたい。
- 3-31 ページの基本施策 33 では固有名詞が多くあり、施策が限定されている印象があるので、文章を再考していただきたい。

- 基本施策 1～28 の中で市民が関わることや市民が色々と実施している活動について、何ができるのかということの基本施策 29～34 に記載して頂きたい。
- 市民参画の施策では、文章だけを見ると提供や支援、充実といったサービスのようなものがあるが、市民が発信していくような項目が見えない。市民会議的な話し合いの場について記載しても良い。
- 「クラウドファンディング」や「ふるさと納税」などの資金調達の支援について、参画の一つの形として定着してきているので、記載できるか検討いただきたい。
- 市民パトロールなど、悪いものだけでなく良いものを見つけたという情報共有ができる施策があれば、みどりというものがより積極的に守られていくので、参画という視点から記載を検討いただきたい。
- 今後、市のホームページに信太山丘陵等で環境保全をしている NPO の名前をあげ、そこから団体ホームページを閲覧できるような情報交流の仕組みを作り、一方通行でない双方向的情報のやり取りができるよう検討するべき。
- 素案 6-2 ページで各主体が何をしているのか記載しているが、一般論となっている。4-17 ページのエリアごとに、どの施策が関係するか、またこの施策をあげて期待される役割や活動内容などを、資料集に市民参画のメニューとして具体的に書けないか検討し、市民の方々が基本計画を見て、どのような行動に繋げていけばいいか分かるようにするべき。

以上